

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：32631

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23110

研究課題名（和文）オスマン朝期アナトリア南東部を中心とした経済活動に関する研究

研究課題名（英文）Economic Activities in Southeastern Anatolia during the Ottoman Period.

研究代表者

齋藤 久美子 (Saito, Kumiko)

聖心女子大学・現代教養学部・准教授

研究者番号：90432046

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではアナトリア南東部が交易の中継地として果たした役割とともに同地域で行われた商取引の実態について検討した。交易品のうち、織物はオスマン朝内外の生産地のものが流通した一方、薬種や香料の多く、そして染料の一部は東方から運ばれたと考えられた。皮革、鉱物・顔料、森林資源の多くは国内産のものが流通したことがうかがわれた。また商取引にかかわるアクターとしてクルド系領主の存在が予想されたため、彼らが果たした役割についても検討した。その結果、一部のクルド系領主が絹をはじめとする交易に参入していたことが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によりアナトリア南東部での経済活動の実態の一端が明らかになった。これは「オスマン朝とサファヴィー朝の緩衝地域」というようなこれまでの外在的なとらえかたに対し、当該地域の内在的な理解を促進するための一助となろう。近代以前のアナトリア南東部に関する研究は制度史が主流であり、同地域を俯瞰するような研究はやや立ち後れている。本研究のように経済活動に着目して地域的特性を明らかにする試みは、境域の地域史につながる研究動向を生み出す可能性がある。

研究成果の概要（英文）：This study examines the role of southeastern Anatolia as a transit point for trade, as well as the details of economic activities centered on the region. Among the goods that passed through southeastern Anatolia, textiles produced both within and outside the Ottoman Empire were circulated. Many medicinal herbs and spices came from the East. Some dyes were also brought from the East. Leather, minerals and pigments, and forest resources were mostly domestic. Since Kurdish amirs (chieftains) were expected to be key actors in the trade, their roles were also analyzed. Some Kurdish amirs engaged in commercial transactions, including silk, and in such cases, their agents were both Muslim and non-Muslim merchants from southeastern Anatolia.

研究分野：歴史学

キーワード：オスマン朝 アナトリア南東部 境域

1. 研究開始当初の背景

アナトリア南東部はアラブ圏・イラン圏・トルコ圏が交錯する地域であり、16世紀前半にオスマン朝の支配下に入るまでは隣接地域と歴史を共有する連動性や一体性を保持していた。16世紀初頭にイランを中心にサファヴィー朝が成立すると、オスマン朝とサファヴィー朝はアナトリア南東部の支配をめぐる激しく対立した。最終的にアナトリア南東部はオスマン朝に帰属することになり、両王朝の間でおおよそその国境が成立した。その後、アナトリア南東部は二つの王朝の緩衝地帯として重要な役割を担った。

アナトリア南東部の社会に目を転じると、同地域の山岳地帯では、14世紀以降、クルド系部族連合を率いた複数のクルド系領主が世襲的な支配を確立した。彼らは交易ルート上にあるまちを本拠地として一定の地域を支配した。社会の支配層はおもにクルド系ムスリムから構成される部族集団であり、人口の多くを占めたと推測される非ムスリムはその多くが被支配層であった。

オスマン朝は、アナトリア南東部の重要性を考慮し、同地域の伝統的な政治・社会秩序を壊さないという選択をした。ほとんどのクルド系領主は領地を安堵され、部族を中心とした社会は維持された。クルド系領主の領地はそのまま県としてオスマン朝の地方行政組織に編入され、クルド系領主の一族が県知事を世襲することが認められた。

以上は研究代表者をはじめとして既往研究で明らかにされてきた点である。これまで16世紀以降のアナトリア南東部に関しては、オスマン朝が同地域をどのように支配したのか、そしてアナトリア南東部の部族を中心とした社会がどのようなものであったのか、おもにこの二点について考察されてきた。しかしその地域的特性については明らかにされたとはいえない。元来アナトリア南東部は東西および南北を結ぶ複数の交易ルートを内包し、人やモノが行き交うひらかれた地域であった。この点について、イランとアナトリアを含むユーラシア大陸の東西を結ぶ交易史の蓄積はあるが、その際アナトリア南東部は交易ルートの中継地点ということもあり、同地域での商取引に研究者の関心が及ぶことはそれほど多くなく、域内や周辺地域に跨る経済活動の実態について十分に明らかにされてこなかった。

2. 研究の目的

本研究は、16世紀から17世紀までを対象としつつ、オスマン朝史研究の文脈では「帝国の周縁」や「特殊な地域」として認識されがちなアナトリア南東部の地域的特性について、同地域を中心とした経済活動に着目して検討するものである。その際オスマン朝とサファヴィー朝の緩衝地域および東西を結ぶ交易ルートの中継地域というアナトリア南東部に関するこれまでの外在的なとらえかたに対し、当該地域に関する内在的理解を深めることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究の遂行のために、トルコ共和国に所在するオスマン文書館所蔵の文書史料を読解したうえで、(1)アナトリア南東部が交易の中継地として果たした役割、(2)アナトリア南東部で行われた商取引の詳細、(3)アナトリア南東部を中心とした経済活動の実態、以上の三点について分析をすすめる予定であった。ところが、2019年度末からの新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により海外渡航ができなくなったため、2022年度までは刊行されている文書史料や研

究課題に関する先行研究など日本でも入手可能な史資料を収集し、それらを利用して研究をすすめることにした。オスマン文書館での史料調査を再開することができたのは2023年になってからである。

具体的な研究方法は次のようである。オスマン朝治下、県単位で編纂された租税台帳とそれに付された徴税にかかわる規則集を読解した。租税台帳にはまちや農村の住民に課された税目・税率・税額のほか、まちを通過する隊商や商人に課された通行税や商取引を行う際に課される諸税が記され、最後にまちや農村の合計課税額が記録されている。租税台帳の冒頭には徴税にかかわる規則集が付されていることもあり、その場合、当該県の慣習税から始まり、オスマン朝治下での変更点やそれぞれの税目・税率・税額の根拠や注意点など詳細な説明が書かれている。租税台帳と徴税規則集からは、国外からオスマン領内に入る際の税関の場所、アナトリア南東部において交易路として利用されたルート、通行税や商取引にかかわる税が徴収された場所、商品の生産地・種類・税率・税額などを確定することができる。租税台帳以外にも、オスマン朝の文書史料のなかには、租税台帳に記録されない税目が書かれたものや商取引上発生した問題について記録したものがあつたため、こうした史料の調査と収集もすすめた。

4. 研究成果

租税台帳に記載のある交易品について、(1)織物、皮革、薬種・香料、染料、鉱物・顔料、森林資源をはじめとする商品の日本語訳を作成し、(2)原産地が不明な商品についてはできるだけ原産地を特定するとともに、(3)アナトリアでの流通経路を明らかにするために、各時代の植物誌、薬物誌、旅行記をはじめ、植物事典などの辞書事典類や各地域の交易史に関する先行研究も参考にしつつ検討した。アナトリア南東部を通過する交易品のうち、織物はオスマン朝内外の生産地の商品が流通した一方、薬種や香料の多くは中央アジアやイランから陸路でもたらされた。染料の一部も東方から運ばれたが、皮革、鉱物・顔料、森林資源の多くは国内産のものが流通した。交易品はアナトリア南東部を通過しただけではなかつた。もともと同地域では織物、染色、皮革といった産業が盛んだったこともあり、こうした生産活動に必要な商品を中心に取引が行われた。

研究を開始する際、アナトリア南東部での商取引にかかわるアクターとしてクルド系領主や非ムスリム商人などが予想されたため、彼らがどのような役割を果たしたのかについても検討した。さらなる検討が必要ではあるが、とりあえず次の点を指摘することができる。

(1)オスマン朝は交易に関わる税を効率的に徴収するために商人に指定されたルートを通るよう命じたが、クルド系領主のなかには、指定ルートを通らずに税の支払いを逃れようとする商人に自領を通過させたり、商人を襲って絹や織物といった価値が高く換金性のある商品を強奪したりする者がいた。

(2)自ら商取引に参入したクルド系領主もいた。莫大な利益をもたらしたイラン産の絹の取引にかかわった記録も残っている。取引においてクルド系領主の代理として実際に活動したのはアナトリア南東部出身のムスリムおよび非ムスリムの商人であつた。クルド系領主が支配した地域では人口の多くがアルメニア人であつたと考えられており、さらに史料に登場する代理人の名も併せて判断すると、非ムスリム商人のなかにアルメニア人が多くいたことがうかがえた。これらの研究成果の一部については、2021年の九州史学会で「16世紀アナトリア東部における交易と権力」と題して研究発表をおこなつた。

以上に加えて、16世紀から20世紀までを対象としたイランとトルコの境域史に関する試論「オスマン朝東部辺境の地、アバガ：地図から消された一地域の歴史的個性をめぐって」『史

淵』157(2020)のほか、オスマン朝の地方行政組織に関する論文集に「アナトリア南東部におけるオスマン支配：ユルトルク・オジャクルク、ウルケリキ、エヤーレト、ヒュキューメトという用語の分析から」(2022)と題するトルコ語の論文を寄稿した。16世紀から17世紀のアナトリア南東部では多くの遊牧民の活動が確認できるが、その一部は交易にも関わっていた。こうした遊牧民の活動の実態の一端を明らかにするために「遊牧民をいかに管理するか：オスマン朝によるベスヤン、プジュヤン、ズィラン部族連合の地方行政組織への統合の試み」『アジア・アフリカ言語文化研究』100(2020)を発表した。

本研究課題に関連して収集した文書史料のなかには、経済面でのイランとアナトリアの関係史のみならず、遊牧民研究や農業技術史など他分野の研究にとっても有用なものが含まれていることが史料を読みすすめる過程で判明した。今後は他分野および他地域の研究への応用にむけて、史料の校訂・翻訳や分析結果の公開の準備をすすめる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 齋藤久美子	4. 巻 100
2. 論文標題 遊牧民をいかに管理するか：オスマン朝によるベスヤン，ブジュヤン，ズィラン部族連合の地方行政組織への統合の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 123-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/95696	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 齋藤久美子	4. 巻 157
2. 論文標題 オスマン朝東部辺境の地、アバガ - 地図から消された一地域の歴史的個性をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史淵	6. 最初と最後の頁 103-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齋藤久美子
2. 発表標題 16世紀アナトリア東部における交易と権力
3. 学会等名 九州史学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Erdal Ciftci, Veyssel Gurhan and Mehmed R. Ekinci (eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Tarih Vakfi	5. 総ページ数 412
3. 書名 Osmanli Devleti'nde Yurtluk-Ocaklik ve Hukümet Sancaklar	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------